
お箸の上手な使い方

車海老

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お著の上手な使い方

【Nコード】

N6603D

【作者名】

車海老

【あらすじ】

お著を上手に使えない作者が書いた、お著にまつわるお話です。

ボクは、お箸を使うのが大嫌いだった。

だって、今まで使ってたスプーンやフォークなんかは、一つだけを握ればよかったんだ。

でも、お箸は二本使わないといけないでしょ。

指使いが上手くないかないし、フォークみたいに、ハンバーグを刺したりしたら、行儀が悪いって、お父さんに怒られるし。

それでボクは、お箸を使ってご飯を食べるのが嫌いだったし、そのお箸はも〜と嫌いだった。でも、お母さんが、

「キミにお箸を教えてあげること。ごめんね、私には何もできないの」

って悲しそうに言ったから、ボクはガンバって、お箸を上手に使えるようになったんだよ。

お母さんに、喜んでもらえるようにね。

それで、お母さんの所にボクの手にぴったりの大きさのお箸を持って、会いに行ったのさ。

扉を開いたら、お母さんがベットの上で空っぽの顔をしていたけど、ボクを見ると、いつものような笑顔になってくれた。

近くのお店で、お母さんの大好物の焼きそばを買ってきたボクは、それをお母さんに食べさせてあげたんだよ。

右手のお父さん指と、お母さん指を曲げて、お箸を持てば、準備OK。

それで、ソース色の麺を一本挟むと、ゆっくり、落とさないようにお母さんの口に運ぶんだ。

少しお口の周りに着けちゃって、怒られるかな、なんて考えていたけど、なんですか。

お母さん笑ったんだよね、泣きながら……。

「どっしたの？美味しくないの？」

ってボクが心配して聞いたら、お母さん、ボクをぎゅっと、抱きし

めて、

「ううん、すっごく美味しいよ。ありがとう」

だって……良かった。

お母さんにもっと喜んで欲しくて、ボクは何度も同じ事をしたよ。

お母さん、このところ、ご飯が欲しくないみたいで、心配していたけど、全部、食べられたんだ。

丸いイスに座ったボクの、頭をなでるお母さんは本当に幸せそうで、ボクもとっても幸せだった。

……でも、それからずっと、お母さんのところに連れて行っても
られないんだよね。

どうしてかな？

ボクは、お母さんが主役だっていうしんみりとしたお祭りの後、お父さんたちと、工場のようなところに来た。

「何をつくとこるなの？」

お父さんに聞いてみた。

「お母さんがな、天国って所に行くんだ。それでオレ達が少しでも寂しくならないようにな、ここでお母さんのカケラを作ってもらんだ」

ふうん。

……天国ってどこ？

それから、ボクはカケラが出来上がるまで、あちこちづろづろすることにした。

工場はどこも明るくて、とてもきれいで。

でも、何もなくて。

なんとなくだけど、早く家に帰りたくなった。

それで少し離れた場所に着いたら、みんな悲しそうに泣いてたんだよね。

お父さんは？

……いた！

お父さんも泣いてる。

その手に持った二本の棒を小さく震わせて、白いカケラを、摘まんでは落として、摘まんでは落としてる。

お母さん。

……ボクの方が上手だよね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6603d/>

お箸の上手な使い方

2011年1月23日14時34分発行